

松山議長ごあいさつ

ただいま御紹介いただきました妙心寺退蔵院副住職の松山と申します。この度は、若者会議の議長という大役を任命いただきました。未熟者ではございますけれども、皆様のお力をお借りしながら、よりよい京都を作っていけるように精一杯努力致しますので、どうぞよろしくお願い致します。

まず、本日、入賞された皆様本当におめでとうございます。私もこの入賞作品を選ぶのに際し、すべて読ませていただいて、そして、この選抜の過程にも携わったわけですが、皆様本当に京都に対する熱い思い、こういう京都を作るんだという提案がたくさん書かれていました。

今日選ばれて、ここに来ていただいた皆様は、特に、マニフェストの内容も素晴らしいのですが、言いつ放しではなく、自分がそれに対してどういう身の処し方をするのかという決意と一緒に書かれており、そこがやはり大きな決め手となったのではないかなと思います。

今日ここにいらっしゃる皆様にも、今後この会議にも御参画いただけるということで、ぜひ素晴らしい京都を作っていくお力を貸していただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

さて、20世紀を代表する宗教家にマザー・テレサという方がいらっしゃいます。マザー・テレサは皆様御存知のように、インドの貧民街で身寄りのない人、貧しい人を温かい目で看護し、手厚い愛情を持って接した方です。このマザー・テレサが活動中に、次のようなことをおっしゃっています。「愛するという言葉の反対は憎むという言葉ではない。愛するという言葉の反対は、無視・無関心だ」と、このようにおっしゃいました。

これは非常に示唆的な言葉だと思っています。つまりは、京都が嫌い、これは別に構わないんです。それは治せばいいんです。しかし、京都なんかどうでもいい、俺には関係ない、これが一番いけないことだと、このように思っています。先ほど市長からもありましたように、若者の無関心、行政への不参加ということがよく言われていますが、とにかくこの大学を卒業した辺り、23、4から35歳の10年ほどは、仕事が忙しい、子育てが忙しいという事情はよくわかりますけれども、やはり10年先と言いますと、我々が本当に世の中の中心を担う、そういう立場になるはずです。ですから、我々が10年後の京都をこうするんだ、こういうまちにしたいんだと言う責任ある提案をし、実行して、そして10年後、中心となってこのまちを作っていかなければならないと、このように思っています。

そしてもう1点、今日お集まりいただいた皆さんは、市長もおっしゃったように非常に優秀な素晴らしい方々です。しかし、一方では、今日お集まりいた

だいた皆さんだけで、今後の１０年の若者提案を作るとなると、それなりのメンバーでそれなりの提案はできると思います。ある意味容易に作ることができるのではと思うのですけれども、しかし、今回の若者提案はそういう趣旨ではありません。

やはり京都の若者には、もちろん優秀な方もいます。しかし引きこもりになっている人、病気の人、忙しい人、いろんな人がいます。意見が言いたい、ここには来れない方もたくさんいらっしゃいます。

今回、この会議は、委員の山口さんの御提案もあり、この模様をインターネットで配信します。そして配信した後に、来れない人に、御自宅でもベッドでも御覧いただき、それは違う、こういう考え方もある、そういうものを発信していただける、そういうシステムを作りました。

ですから、今回は今日お集まりいただいた皆様の御意見を伺いますが、やはり京都に関わるいろいろな若者の皆さんの意見に耳を傾けて、責任のある１０年後の素晴らしい京都を作っていきたい、このように思っています。

いずれに致しましても、私、非常に未熟者、まだまだ力不足でございます。本日御列席の皆様、また、京都にいらっしゃる色んな方々のお力を借りて、素晴らしい京都を作っていきたいと思います。何卒、皆様の御支援・御協力をお願いします。ありがとうございます。